

## インターバンクの声（2015年2月5日）

先週始め以降、ゆっくりとではあるが回復傾向にあったユーロが、ニューヨーク市場の終盤に再び大きく下落してしまった。欧州中央銀行（ECB）が2月11日からギリシャ国債を担保として受け入れないことを発表、いままでの特例措置を解除したのだ。もっともこの発表の前にも、ギリシャの債務再編をめぐる交渉に進展もなく、ECBの支援がなければギリシャ政府の資金は早晚底を突くだろうとの話も伝わっていた。ギリシャ新政権とトロイカ側との間の駆け引きが続いてきたが、早い時点からギリシャ新政権は欧州連合（EU）と対立、トロイカ側の結束を試しているようだったが、今回のECB決定はやけに早いと感じたことだろう。新政権にしてみればトロイカ側からの圧力と受け取るだろうが、資金支援の期限となる2月末が日に日に近づいてくる。最終的にはギリシャはユーロ圏に留まるだろうとの見方が一般的なようだが、油断は禁物、市場が大混乱に陥る想定をしておくことも必要だろう。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。